

「人間関係づくりの演習と道徳③」

～「クラスがまとまる 支え合う」人間関係づくりを～

土田 雄一

年度の後半は友達同士の人間関係づくりだけでなく、クラス全体のまとまり、高め合う力を育てたいものである。ここでは、学級全体の人間関係づくりに役立つ演習を紹介し、演習と道徳授業との関連について述べる。

「ばちばちりレー」で協力を実感

まず、クラス全員で円になる。スタートの人を決め、順番に手をたたく。「全員がたたき終わるまでに何秒かかるか」という演習である。学年や人数によってもタイムの違いはあるが、1回目のタイムより練習を重ねたり、話し合いをしてやり方を工夫したりすると確実にタイムは縮む。全員の協力によってタイムが縮む。協力による成果を実感しやすく、一体感がうまれやすい演習である。

左回り、右回りと回す方向を変えるのもよい。

「シットイングビーチボールバレー」と「合い言葉はナイスとドンマイ」

グループごとの活動で好評なのが「シットイングビーチバレーボール」である。意外に楽しい。

5～6人のグループで円になってお尻を床につけて座る。ビーチボールを使い、「時間内に、落とさずに何回トスを続けることができるか」を競う演習である。お尻を床につけたまま行うバレーボールである。時間は2分。1回目の記録を残しておき、それを超える回数をめざしてチャレンジさせるとよい。

ボールがビーチボールを使用するので、コントロールしやすく、安全であり、運動が苦手な子でも比較的取り組みやすい。慣れてくると100回を超えるグループもでてくる。作戦タイムを設け、どうしたら時間内にたくさんの数を回すことができるか話し合うのがポイント。

よいプレーには「ナイス」、失敗したら「ドンマイ」を合い言葉にすると温かい雰囲気が生まれ、

自然に協力し合う意識が高まりやすい。

ビーチボールは100円ショップなどで安価で手に入る。大ききの異なるものを用意しておき、交換しながら演習を進めるのも楽しい。

「協力ゲーム」を活かすために

まず、「タイムを縮める」「回数を増やす」など目標の達成に向かって話し合う「作戦タイム」を設けることがポイントである。(その際、前回掲載の「いな運送」で聞くとよい。)その作戦がうまくいくこともあれば失敗することもある。あるいは個人のミスによる失敗もあるだろう。そこでお互いに「補い合う気持ち」で作戦を立て直したり、並び方を工夫させたりするとよい。

次に「シェアリング」(ふりかえり・分かち合い)をすることである。協力ゲームを楽しむだけでなく、「協力できたか」「友達に声かけができたか」「どう感じたか」など簡単でもよいので話し合う時間を設けることがポイントである。

「支え合う仲間」(重点主題)と関連させる

5年の重点主題に「支え合う仲間」がある。「まかせてみようよ」と「みんなの劇」(『ゆたかな心』5年9・10)で構成されている。宿泊学習などと関連させて活用するのもよいが、ここで紹介したグループで行う演習と関連させて授業をするのもよい。

グループ・クラス全体での演習はいつもうまくいくものではない。その中でお互いを支え合い、高め合う気持ちや態度が実感しやすくなる。演習と道徳資料を組み合わせることによってよりねらいにせまりやすくなる。

「支え合う仲間」「協力」などねらいが共通であれば、他学年の資料でも活用できる。